

小 児 科

小児科：1年時必修研修および2回目の選択研修

指導医：小児科部長、小児科医長、指導医の資格のある小児科医師

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の小児科医師、および臨床経験7年以下の小児科医師

指導者：周産期病棟の看護師長、小児科外来専従看護師

●一般目標（GIO）

成長発達の途中にある小児の健康上の問題を、全人的に把握するために小児科診療に求められる基本的知識、臨床応用能力、態度を習得し各専門的医療に進むための基礎を築く。

●行動目標（SB0s）

- ・ 患児およびその家族との信頼関係を確立することが出来る。
- ・ 他職種を含めたチーム小児医療を理解し、その中で指導医、上級医と共に医師としての役割を果たすことが出来る。
- ・ 小児の疾患の病理、病態生理を理解出来る。
- ・ 問診、身体診察を含む非観血的診断スキルを身につけ、総合的診断能力を養う。
- ・ 小児の発達を理解し、年齢に応じた疾患特異性を理解出来る。
- ・ 小児期疾患の初期診断、および治療に必要な知識・技術を習得する。
- ・ 小児科独自の診察法、検査手技、臨床検査の実施及び評価、治療手技、薬物療法（輸液療法も含む）（別記）を理解し習得する。
- ・ 小児救急医療にて求められる、迅速な判断・対応を身につける。
- ・ EBMに基づく小児医療を行うための情報収集、技術講習を通じ、積極的に自己啓発に努めることが出来る。
- ・ 地域中核病院にて診療に従事する重要性を理解、自覚し、地域チーム医療としての病院連携を図ることが出来る。

●方略

<病棟業務>

- ・ 周産期病棟を中心に、常時数名程度の小児患者を指導医、上級医と共に担当する。その中には、NICUにおける新生児も含む。
- ・ 担当患者の問診および身体所見をとり、指導医、上級医とともに検査計画、治療計画を立てる。
- ・ 担当患者の血液検査（採血等）、画像検査（エコー、CT、MRI およびその鎮静）、腰椎穿刺、導尿といった各種検査にできるだけ付き添い、検査を見学および状況に応じて指導医のもとで検査そのもの、およびそのための採血、鎮静なども実践する。
- ・ 指導医、上級医のもと、採血、静脈ルート確保、経鼻胃管挿入、導尿などの実践も行う。

- ・ 指導医、上級医とともに必要な生活指導を入院患者およびその保護者に行い、診療内容・説明内容をカルテに記載する。
- ・ 機会があれば、気管内挿管、動脈ライン確保といった手技も経験する。
- ・ 担当患者に関わる書類（他院への診療情報提供書、入院証明書など）の作製を経験する

<外来業務>

- ・ 小児科外来にて、別記してある領域的研修内容の疾患を指導医、上級医とともに経験する。
- ・ 臨床研修2年目の研修医においては、問診、診察、検査オーダー、評価、処方といった「一般外来」診療を経験する。
- ・ 外来患者の血液検査（採血等）、画像検査（エコー、CT、MRI およびその鎮静）、腰椎穿刺、導尿といった各種検査にできるだけ付き添い、検査を見学および状況に応じて指導医のもとで検査そのもの、およびそのための採血、鎮静なども実践する。

<救急業務>

- ・ 担当患者の急変に対しては、指導医、上級医とともに直ちに対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。
- ・ 平日日勤帯の救急患者に関しては、救急搬送時において、小児科外来もしくは救急外来小児科診察室で指導医、上級医と共に対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。
- ・ 研修医が小児科日直および当直に入ったときも救急外来小児科診察室で指導医、上級医と共に対応する。

<基本的検査手技および治療手技>

- ・ 後述する検査手技、治療手技を、当初は見学からはじめ、慣れた頃には、指導医、上級医の指導のもと施行する

<コンサルテーション>

- ・ 他の診療科からのコンサルテーションに対して、指導医、上級医とともに対応する。
- ・ 担当患者が他科受診する際には、指導医、上級医の指導のもとで院内紹介状を記載する。

<カンファレンス>

- ・ 毎朝の始業時カンファレンスに参加する。
- ・ 毎週1回の症例カンファレンスに参加する。
- ・ 入院患者の退院前カンファレンスや他職種カンファレンスにも参加する。

<勉強会>

- ・ 毎週の抄読会に参加する。なお、臨床研修医は小児科ローテート研修中に必ず1回は抄読会を担当する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医とともに参加し必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
8:30	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
～	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
12:30	(一般外来)	(一般外来)	(一般外来)	(一般外来)	(一般外来)
14:00	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
～	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
17:00	(専門外来)	(専門外来)	(専門外 来)	(専門外来)	(専門外 来)
		(乳児検診) (予防接種)		(乳児検診) (予防接種)	
17:00				小児科抄読会	
～				or C.C.	

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者（周産期病棟師長、小児科外来専従看護師）が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。

●参考資料

・ <基本的検査手技および治療手技>

1. 基本的検査手技
 - 1) 採血手技（静脈血、毛細管血）
 - 2) 腰椎穿刺
 - 3) 採尿法
 - 4) 骨髄検査
 - 5) 消化管透視
 - 6) 経静脈性腎盂尿路造影
2. 臨床検査の実施と評価
 - 1) 一般血液検査、血液像
 - 2) 尿、便一般検査
 - 3) 血液生化学検査
 - 4) X線検査（単純、造影、CT、MRI）
 - 5) 心電図
 - 6) 髄液の一般検査
 - 7) 細菌培養検査
 - 8) 血液ガス分析

- 9) 血糖の簡易測定
- 10) アレルゲン検索
- 11) 凝固学的検査
- 12) 脳波
- 13) 内分泌学的検査
- 14) 染色体異常
- 15) 代謝異常マスキング
- 16) 心エコー、腹部エコー
- 17) 鎮静（静脈麻酔）

3. 基本的治療手技

- 1) 静脈注射、皮下、皮内、筋肉注射
- 2) 点滴法
- 3) 胃洗浄
- 4) 腹腔穿刺
- 5) 胸腔穿刺
- 6) 救急処置（発熱、痙攣、嘔吐、腹痛、意識障害）
- 7) 交換輸血
- 8) 導尿
- 9) 経管栄養
- 10) 高圧浣腸
- 11) 蘇生（人工呼吸、気管内挿管）
- 12) 浣腸

・＜小児科領域的研修内容＞

1) 新生児疾患

新生児のケア、分娩、帝王切開の立会いと適切な蘇生処置を学ぶ新生児治療室内での病的新生児の病態評価および治療、低出生体重児の管理を行う。救急車での新生児搬送を実施する

2) アレルギー疾患

入院患者の受持ちとして研修しながら、アレルギー外来でアレルギー検査を実施する

3) 循環器疾患

代表的な疾患の管理および基本的な心エコーの判読を学ぶ

4) 感染症、呼吸器疾患

主な感染症の病態を理解し、診断・治療を行う
 予防医療を理解し、予防接種を実践する

- 5) 先天異常、染色体異常
代表的疾患について理解する
- 6) 内分泌、代謝疾患
内分泌疾患、先天代謝異常の基本的な病態を理解し、治療する
- 7) 消化器疾患
代表的な消化器疾患について診断治療を行う
- 8) 血液疾患、悪性腫瘍
代表的な疾患について鑑別診断と治療を行う
- 9) 腎疾患
頻度の高い疾患の病態を理解し、治療を行う
- 10) 神経筋疾患
神経学的診察を把握すると共に、代表的な疾患の鑑別診断と治療を行う
- 11) 水、電解質の管理
種々の疾患を通して小児の体液生理の特殊性を理解し、実践する
- 12) 成長、発達、栄養
新生児健診、外来における乳幼児健診を通して、小児の発達特異性を理解し、正當に評価する
- 13) 救急
時間外救急および新生児救急患者を通して、重症度の判断と的確な処置を研修する。また、虐待児の早期発見にも務める
- 14) 成育医療
成育医療の概念を理解し、新生児医療、小児医療の中でその一翼を担う
- 15) 関連領域
関連領域の知識を有し、他科と連携しながら適切な対応を行う